

広報くまとり

Kumatori



クマなく読んで、あなたもトリコ。

April 2026

No.899

4



特集面

Grffiti artist **COOK**

「ビー・バップ・ハイスクール」に憧れ、やんちゃな少年時代を過ごしていたCOOKさん。高校中退後、先輩の影響でレゲエDJとして活動を始めましたが、仲間が売れていくなか自身は芽が出ず、葛藤の日々が続ききました。そんななか、子どもの頃から得意だった絵を活かし、イラストレーター(イラスト制作)を始めました。そして、バーの壁に描かれたグラフィティに心を強く動かされ「本場で学びたい!」とLAへ渡航。現地では圧倒されながらも作品を見て学び、帰国後は毎日絵を描き続けました。その経験が今のCOOKさんを形作ることとなります。

単身LAに渡り独学でグラフィティを学ぶ



帰国後も描き続けるなか、町内の事業所から声がかかり、初めて仕事として壁画を手がけます。その経験が転機となり、活動の場は大きく広がりました。2014年には手塚プロダクションとコラボレーションし、『鉄腕アトム』を描いた作品が話題となり、LAでも注目を集めました。さらに、『ルイ・ヴィトン』や『ユニバーサル・スタジオ・ジャパン』などからも依頼を受け、昨年は『大阪・関西万博2025』の大きな壁画を手がけました。「いずれは故郷である熊取町にも作品を残したい。そして、もっと上手になりたい。死ぬまで絵描きでいたい」と思っています。COOKさんは力強く語ってくれました。

熊取町から世界へ描き続けるという挑戦

帰国後も描き続けるなか、町内の事業所から声がかかり、初めて仕事として壁画を手がけます。その経験が転機となり、活動の場は大きく広がりました。2014年には手塚プロダクションとコラボレーションし、『鉄腕アトム』を描いた作品が話題となり、LAでも注目を集めました。さらに、『ルイ・ヴィトン』や『ユニバーサル・スタジオ・ジャパン』などからも依頼を受け、昨年は『大阪・関西万博2025』の大きな壁画を手がけました。「いずれは故郷である熊取町にも作品を残したい。そして、もっと上手になりたい。死ぬまで絵描きでいたい」と思っています。COOKさんは力強く語ってくれました。



熊取町出身 Graffiti artist

グラフィティアーティスト

COOK

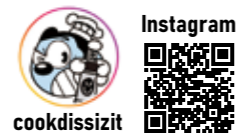
COOK (グラフィティ・アーティスト)

グラフィティを基盤に、キャラクターを用いたストーリー性のある作品で独自の世界観を表現するアーティスト。これまでアパレルブランドへのデザイン提供や国内外のミュージシャンのジャケット制作など、さまざまなジャンルとのコラボレーションを行ってきた。壁画アートも多数制作しており、さまざまなショップ、ブランド、企業、自治体に作品を提供している。

グラフィティとは、スプレーやペンキを使い、町なかの壁や建物などの公共空間に文字や絵を描く、ストリートから生まれた現代アートの一つ。自己表現やメッセージを発信する文化として世界中に広がり、近年は芸術としても注目されています。今回は、大阪・関西万博2025で壁画制作を手がけ世界的に活躍されている熊取町出身のアーティストCOOKさんをご紹介します。



USJ



cookdissizit



大阪・関西万博2025





第36回くまとりロードレース

第36回くまとりロードレース



泉南市から健康ジョギングファミリー1.8kmに参加の田辺さんファミリー

フルマラソン経験者の学さんが、甥っ子たちに走る楽しみを知ってもらいたいとまずは短い距離の健康ジョギングファミリー1.8kmにエントリー。ロードレースのことは、熊取在住の友人に教えてもらったそうです。大地さんは、子どもの中で一番早く、学さんは大人2位でゴールしました。1.8kmがちょうど良かったと話すが皆さんでしたが、仁さんは「ギリギリでした」とお疲れ気味。来年は距離を延ばして挑戦したいと充実の表情の田辺ファミリーでした。



町内小学校で英語の先生をしているカイルさん

子どもが生まれ、お父さんになったので「健康でいなくちゃ」と思い、2年連続5kmを走っているカイルさん。生徒たちからも大人気で「先生頑張れ〜!」と沢山の声援が聞こえていました。アメリカに住んでいる時も感謝祭などで走っていたそうで、熊取町のロードレースに対しても「course was fun. 坂のしんどさでもベリーパーク周辺の景色が綺麗だから楽しい」と話してくれました。来年は同僚と10kmに挑戦したいと意気込むカイルさんの健康への道のりはまだまだ続きそうです。



最高齢の女性参加者の河内さん

年に1・2回フルマラソンに参加する河内さんは今年で76歳。健康のためにロードレースでは3年連続10kmを走っているそうです。「マラソンは走っている時とはともしんどいけど、走り終わって自分の目標の時間を達成できた時に「あ〜やってよかった」と思うし、自分に負けたくないからずっと走り続けているんです」と話してくれました。週4回以上練習していて、フルマラソンを走り続けることが目標だそうです。これからも健康で走り続けてください!



森脇健児さん
今年もご参加
ありがとうございます!